
みかんとよもぎ

松野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みかんとよもぎ

【Nコード】

N4183R

【作者名】

松野

【あらすじ】

てのひらサイズの小さな生き物に、僕の苦手な食べ物の名前を付けた。

「よもぎ」

彼女は宇宙人だと言い張るけれど、僕にはよく分からない。

ゆるやかな四コマの小説。

ダンボール箱

腐った雨の日に、僕は奇妙な紺色の傘を差しながら歩いていた。
下校途中、だ。

「みかん、」

飲み込まずに呟いた、僕の名前が書かれた段ボール箱。
濁り濁ってふやけてボロボロな段ボール箱。

僕はその箱の前で止まってしまった。

このまま突っ立ってたら、制服濡れちまうぞ。

「みかん」

もう一度呟いた。今度は、呟くというより呼びかけたに近い。
何をしてるんだ、僕は。

視線をダンボール箱から外して下に、そしてまた元に戻す。

「あ、」

そこに居たのは小さな小さな、何かだった。

墜落したのー

「こんにちわー」

「・・・こんにちは」

かなりびちょびちょに濡れている小さな生き物は僕に向かって笑顔で話しかけた。

声からして、女の子っぽい。

何故か白い猫の着ぐるみを付けている。

「ー？」

小首を傾げるその小さな生き物。

「・・・だめだ。可愛い。」

段ボール箱と同じ高さまでかがむ。

小さな生き物は段ボール箱のふちに手を掛けてぶら下がっているようだ。

大変だろう、と思いその生き物をそつと手の上に乗せた。

「あうー」

小さな生き物はそんな声を上げながら素直に手のひらに乗った。両手のひらにすっぽり収まるくらい小さい。

「・・・濡れてる。」

雨、ひどいもんなあ。

「お前、なんでそんなところに？」

「墜落したのー」

「墜落？」

「地球の上通ろうと思ったけどね！自分だけ落ちちゃった」

「・・・そうか。なら、僕のところに来る？」

「いいのか！お前優しいな！！」

そう言って、その生き物はにぱつと笑った。

これは・・・・・・・・誘拐じゃないと信じよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4183r/>

みかんとよもぎ

2011年10月6日01時40分発行